

最優秀賞

小学生部門へいきいきした作品

京都市立高倉小学校 3年

宮田 心晴

つながる命

第7回 言の葉大賞®

私は、夏休みのお盆に、お父さんから「つながり」について話を聞きました。その内容は、色々なモノは、すべてつながっているという話でした。

私が生まれたのは、父と母二人がいたからで、父と母が生まれたのは、それぞれの祖父母四人がいたからで、祖父母が生まれたのは、曾祖父母八人がその先は、十六人、三十二人、六十四人と、自分のご先祖様を数えていくと、五百年もさかのぼれば十万人をこえる人数になり、そしてその中たった一人でもいないと、私が生まれていない、という話でした。

「命がつながるってすごいだろ」

と、お父さんに言われて、ビックリし、とてもかんどうしました。

ついでに、千年前までさかのぼって計算してみたら、なんと八十億人をこえて、今の地球の人口以上の、ご先祖様がいる事にまたまたビックリしました。

私が生まれるまでに、たくさん、命がつながって、きたんだなーっと思うと、この命を大切にし、次の未来につなげていきたいと、思いました。

それから、毎朝うるさいなーっと思っていたセミのなき声も、今ではうるさいと思わなくなりしました。

以前なら、うるさくて少しおこっていたなき声でしたが、お母さんから

「セミは一週間しか生きられないんだから、そんなにおこらなくてもいいじゃない」

といわれた言葉を思い出し、今ではセミのなき声が聞こえると、ガンバレという気もちの方がつよくなりました。

今年のお盆は、ご先祖様からつながった命と、一週間なきつづけるセミの命という、二つの命の話から、生きぬく力をかんじた夏休みでした。